

実習報告

6年間の実習指導室を振り返って

小 泉 秀 信

Summary Report of 6-year Activity as a Head of Social Welfare Practicum Support Section

Hidenobu Koizumi

在任期間（2006年4月1日～2012年3月31日）

1. はじめに

目白キャンパス時代からの実習体制に少し触れておきます。

「日本女子大学社会福祉学科80年史」によりますと「人間社会学部における実習体制の整備」の項目に詳しく記載されております。

P283からの項では、抜粋すると（以下の囲み欄の挿入部分です）

西生田の人間社会学部が開設された一年目は、2年次以上は目白キャンパス1年次からは西生田キャンパスに通学するようになり、教員も両キャンパスをかけ持ち、多忙さは、これまで以上となった。そのため、目白キャンパスで実習にかかわるのは、牧野田恵美子教授と助手が主に担当する以外に、この2学部の授業をスムーズに運営することは、困難であった。学生や実習施設に迷惑をかけることは出来ないのであるが、学生にとっては、実習の授業が不十分であると感じることもあったであろう。－中略－

1995年（平成7年）4月から田中美恵子、須之内怜子両助教授が、実習担当の教員として学科の構成メンバーとなった。

－中略－実習前の学習として重要とされて

いる援助技術演習の授業に、これまで以上に力を入れ、学生のソーシャルワーク技術の習得、特に事例検討を通じて学習するひとを重視した。－中略－その後小山聡子（95年）、中谷陽明（97年）の2名の専任講師が就任するという教員の交代はあったが、文学部時代より確実に充実する体制で、5名の担当教員は、定期的に実習教育について検討を行いながら現場実習の効果を上げるよう努力した。－中略－

（各教員の肩書きは当時のものです。敬称略しました。）

このような本学の実習に対しての足跡を考えた時、当時の実習教育に対しての各教員の情熱に対して深く敬意を払います。

2. 実習指導室

(1) 実習指導室の体制

2006年4月の開室当初の実習指導室（以下指導室と表記）は、室長とTA1名。隔日でTA2人の体制でスタートをしました。

2009年4月1日から、中央研究室に実習担当助手が1名配置され（中央研究室業務と兼務）指導室としての体制が確立しました。

(2) 実習指導室長業務の変遷

2006年度は、開設して当初、指導室の業務も次の様な事務分掌で始めました。

(以下の社会福祉実習指導室長内規(2006年4月4日)抜粋し職務の項のみ記載しました。)

(職務)第6条 実習指導室長は、次の各号の職務に従事する。

(1) 下記の授業科目に関わる教育指導上の補助に関する業務

・学部のみ「社会福祉実習論」・「介護技術」・「社会福祉現場実習」

・学部及び大学院「社会福祉援助技術演習Ⅰ及びⅡ」・「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ及びⅡ」(院は「社会福祉実習指導」)・「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ、Ⅱ及びⅢ」
「精神保健福祉援助演習」・「精神保健福祉援助実習Ⅰ、Ⅱ及びⅢ」

・大学院のみ「社会福祉援助技術演習」・「社会福祉援助技術現場実習指導」

(2) 社会福祉領域の実習機関・組織の情報収集及び確保に関する業務

(3) 社会福祉領域の実習機関・組織への学生の配置に関する業務

(4) 学生に対する実習事前指導、実習中巡回指導、実習事後指導に関する業務

(5) 実習関連の文書の作成・保管・発送に関する業務

(6) 厚生労働省、文部科学省、社団法人日本社会福祉士養成校協会、精神保健福祉士養成校協会等の団体が主催・共催する社会福祉の実習教育に関する会議、セミナー、研修会への本学を代表する者としての参加

(7) その他社会福祉領域の実習に関わる諸業務

以上が室長の業務分掌の一部です。

実習の相談以外での相談も多く、学生も2年生、3年生、4年生と複数の学年にわたりました。そして学生が多い日では、9人程。少ない日でも最低4名程来室がありました。

(表①・②・③参照) *表は4月～7月・10月～1月の8ヶ月の間の集計です。

「大学にATMを設置して欲しい」「パソコンを24時間、自由に使わせて欲しい」「実習を4年生の時から3年生の時にして欲しい」「時限目と時限目の間をゆとりがある時間配分にして欲しい」など実習以外の相談、要望が多く、また「学生からの実習に対する不安など」「実習配属相談」「学生の進路相談」「学生の悩み相談」「学生の友人関係の相談」「教員への要望」など学生が不満に思っている事や多様な相談が寄せられていました。

この状態が続くと実習事務処理が滞り、支障をきたすため、各教員からのご助言、ご指導を受けて、事務的な部分をTAに任せ、私は、「学生相談、実習先との連絡調整、施設訪問、実習先開拓」を主に行うようにしました。

なお2006年～2009年は、各教員に実習分野を割り振らず、実習室として全体を把握していました。2008年度から、室長としても、「社会福祉援助技術演習Ⅱ」の講義を受け持つこととなりました。

その事に伴って、中央研究室助手が実習事務を一部負担することになりました。

2009年度からは、この体制が確立し、実習担当も各教員に割り振ることとするようになりました。

その事により、室長の実習対応の範囲も「福祉事務所・社会福祉協議会」分野に限られるようになり、実習室も事務的に全体を統括することのみとなり、「各ジャンルの学生への指導」「対応」は各教員に任せることになりました。

そして「社会福祉協議会」等の巡回指導の一部

表①

在校生	実習相談	進路相談	就職相談	転職相談	授業相談	その他	合計
2006	105	56	16	29	26	55	287
2007	122	48	21	15	30	45	281
2008	102	39	21	13	14	30	219
2009	88	43	21	11	9	56	228
2010	97	67	39	23	14	25	265
2011	70	76	82	20	13	20	281
合計	584	329	200	111	106	231	1561

表②

卒業生	実習相談	進路相談	就職相談	転職相談	授業相談	その他	合計
2007	0	6	7	1	0	6	20
2008	0	5	8	3	0	9	25
2009	0	8	5	4	0	4	21
2010	0	5	4	7	0	2	18
2011	0	6	7	9	0	6	28
合計	0	30	31	24	0	27	112

表③

院生	実習相談	進路相談	就職相談	転職相談	授業相談	その他	合計
2006	0	3	1	0	0	2	6
2007	0	2	3	1	0	3	9
2008	0	1	2	0	0	2	5
2009	0	4	3	2	0	1	10
2010	0	2	1	1	0	4	8
2011	2	2	2	1	0	2	9
合計	2	14	12	5	0	14	47

を非常勤の巡回指導講師の助力を受けることとなりました。しかし、「他の教員の分野の学生」も指導室の方へ相談に来る事があり、対応したりし、各担当教員に引き継ぐといった状況になりました。

その他の事としては、在學生や卒業の進路・就職相談援助や、学生の要望に基づき、各施設、実習機関への見学、挨拶を行いました。そしてキャリア支援課との連絡・調整を行いながら就職活動の援助を行いました。

実習施設開拓や挨拶、介護体験実習の巡回指導の業務等を行いました。

(3) 社会福祉実習論

実習論授業の対応業務は主に次の7つに分けられます。①ゲストスピーカーの選定と依頼をする。②ゲストスピーカーの日程調整とそれに伴う業務を行う。③ゲストスピーカーへの準備業務を行う。(依頼書・謝金業務など) ④授業時レジメの作成と感想文の準備をする。⑤授業出欠準備→実務、集計などはTAに依頼する。⑥授業時の写真撮影をする。⑦まとめを各教員に閲覧する。

また2010年度から本学卒業生のゲストスピーカーを加えることにしました。(4～7以前の卒業生の選定) このことは、在學生(2年生)にとっての将来の進路選択の参考として、またロールモデルとしての効果も上がりました。

ただ2009年度から見学を取りやめた事については少し残念に思いました。

しかしその分ゲストスピーカーの時間が増えました。実習論の事務的な業務量拡大に伴いTA1名をつけました。

(4) 総括

室長室のレイアウトなどを工夫して研究室を相談場所の提供として開放することにより、「学生が相談しやすい環境」としてドアを開放、内側のドアを開閉することにより学生の相談内容によって、使い分けることで効果的でした。

そして「学生のプライバシー確保」と「相談しやすい環境」との整合性を図りました。学生は一人で相談に来室する学生、2～3人で来室する学生と多様ですが、おおよそ10分～30分の相談時間が多かったように思います。

大学院生が中間発表前に疲れた時の自己回復としての空間の役割もありました。事務的処理は当初1～2年間は多少混乱が見受けられましたが、TAの努力と実習助手の整理で対応できるようになり業務の確立性が効果的になりました。

また業務の合理化・OA化に伴って業務の迅速性が図れました。このことは、中央研究室助手の役割が大きかったと思います。

「相談業務」・「事務処理業務」・「対外的な連絡調整業務」・「授業対応」といった多様な業務を効率的に対応して出来るようになったことは、その年度ごとのTA、アルバイトの方の献身的な助力と中央研究室のスタッフのご協力の賜物と、各教員の方々からのご援助の賜物と存じます。

以上、力不足の指導室長を支えていただいたことに紙面をおかりし関係各位に感謝をしていきたいと思います。

(5) 課題

相談室の相談体制の整理の改善が必要かと思えます。相談室のオフィスパワー徹底が必要かと思えます。

新カリキュラムに伴う実習期間の統一化が望ましいと思われます。そして新カリキュラムに伴う実習登校日の統一化が望ましいと思われます。

しかし困難な実習先もあることも事実です。また、「実習先からの評価票」と「自己評価票」の項目の統一化が望ましいと思われます。

(後日の実習指導後の授業に使用するのに利便性がある)実習終了後に提出する書類の締め切り日の厳格化が必要です。

ボランティア・アルバイトの情報広報の統一化が必要です。実習委員長・実習指導室長の役割分担が必要かと思われます。

学生からの要望である3年生での実習について可能であれば是正されると望ましいかと思えます。実習巡回指導については、新カリキュラムに伴う「実習テーマ」についての協議、検討を学生・実習先・教員側との「実習テーマ」の整理化が今後必要かと思えます。

(6) その他

折に触れ卒業生が来室した時など転職の相談があり、キャリア支援課との連絡調整行ったりしました。また巡回指導時での実習先への新カリキュラムへの移行の説明を行ったりしました。

次に具体的な学生から実習室の印象について紹介しておきます。

－在学生の声－

A学生(4年生)実習室は、一見雑然としているが、親しみやすい空間である。先生の在宅時間

表④ 施設・機関の挨拶・見学数実績

年度	福祉事務所	社会福祉協議会	児童福祉施設・児童相談所	障害者・児童福祉施設	高齢者福祉施設	その他施設・機関	合計
2007	2	3	2	1	2	3	13
2008	2	3	2	1	2	4	14
2009	2	3	2	1	2	3	13
2010	2	3	1	1	1	5	13
2011	3	2	2	0	2	4	13
合計	11	14	9	4	9	19	66

表⑤ 施設・機関の挨拶・見学学生数実績

年度	福祉事務所	社会福祉協議会	児童福祉施設・児童相談所	障害者・児童福祉施設	高齢者福祉施設	その他施設・機関	合計
2006	10	15	14	5	7	8	59
2007	9	14	12	4	6	6	51
2008	8	11	11	4	8	7	49
2009	7	14	12	3	5	8	49
2010	8	6	4	2	4	8	32
2011	7	5	8	3	4	6	33
合計	49	65	61	21	34	43	273

がわかっている方が、生徒も入室しやすい。

多少寒いですが、ドアが開いている方が、入室も相談もしやすい。

B学生（4年生）グリーンのイスで明るく雰囲気が良い。ドアが開いていて、立ち寄りやすく、入りやすい、先生も明るく、いろいろオープンで楽しい。

C学生（3年生）本音の話が出来て助かります。

－卒業生からの声－

D卒業生（卒業しても気楽に入れる場所で嬉しく思います。転職の相談や職場の悩みごと聞いてくれて元気を取戻せます。）

E卒業生（卒業しても学生自身が自分を取戻せるようで嬉しいです）

F卒業生（愚痴を聞いてくれる場所で元気になり

ました。）

－大学院生からの声－

G院生（癒しの空間として利用させていただき嬉しかったです。）

H院生（論文等まとまらない時にここに来て整理ができました）

3. 授業

(1) 社会福祉援助技術現場実習指導 I

授業形態としては、基本的にグループディスカッションを中心として、折にふれてゲストスピーカーを呼び、直接現場の話を聴講してもらい、現実感を会得してもらいました。

これにより、学生の主体的な発言を啓発し、学生の積極性を発揮できるようにすることを授業の狙いとししました。

グループ内では、「司会・書記・まとめ・発表」

の役割をクラスの全員が経験することにより、実習現場に行っても困らないように積極性を発揮できるように効果を考えました。

社会に出てからも、「7年前のある卒業生からの手紙（*手紙文2例）」にある様に、効果的と信じ

行ってきました。

授業評価においても以下のような授業評価を学生からの声として活かしました。（表⑥）また学生からの厳しい指摘に対しても素直に次年度の授業に生かすように心がけました。

（*手紙文2例）

2007年度卒のR卒業生よりの手紙の抜粋（A信託銀行勤務）

－中略－

現在の業務で、先生の授業で行ったグループディスカッションの時間での書記の役割が生きています。

実際の会議で書記の仕事の場面で、とても参考になっております。

ありがとうございました。これからも実社会で役立つ授業を後輩にしてあげてください。

－中略－

2009年度卒のJ卒業生よりの手紙（K市の公務員勤務）

－中略－

授業で行った「電話応対の方法」が、職場の新人研修の内容で先生が授業で行ったものと同様な内容でびっくりしました。

他の大卒の新人より慣れていて、新人研修で助かりました。配属は、福祉以外の配属になってしまいましたが頑張ります。

－中略－

表⑥

授業評価アンケート結果（個別集計結果）（2009年9月学部FD委員会よりのお知らせから）

社会福祉援助技術演習Ⅱ

・シラバス（講義概要）は受講に役立った	本学全体平均3.95 小泉平均4.07
・各回の授業のねらいは明確だった	本学全体平均4.16 小泉平均4.52
・授業の内容は分かりやすかった	本学全体平均4.06 小泉平均4.48
・各回の授業内容の量が適切だった	本学全体平均4.05 小泉平均4.19
・授業で扱った分野に関する基本的な知識が得られた	本学全体平均4.18 小泉平均4.37
・自分にとって新しい考え方・発想が得られた	本学全体平均4.08 小泉平均4.63
・学問的興味をかきたてられた	本学全体平均4.04 小泉平均4.67
・教員の授業に対する準備は十分だった	本学全体平均4.34 小泉平均4.67
・教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションが取れていた	本学全体平均4.09 小泉平均4.89
・教科書・授業レジュメプリントや参考文献が効果的だった	本学全体平均4.05 小泉平均4.67
・教員の声の大きさや話し方は適切であった	本学全体平均4.25 小泉平均4.59
・板書やパワーポイントなどは分かりやすかった	本学全体平均3.85 小泉平均4.41
・教員は静かな環境で受講できるよう努力した	本学全体平均4.20 小泉平均4.56
・自分も授業中の静寂性を保てる努力した	本学全体平均4.36 小泉平均4.56

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| ・この授業で積極的に意見や質問を述べた | 本学全体平均3.30 小泉平均4.19 |
| ・あなたのこの授業に対する総合評価(満足度)を示してください | 本学全体平均4.09 小泉平均4.59 |

この結果すべての項目で本学全体平均を上回った評価を得ました。
また学生からの自由記述欄の代表的記述としては、

- ① 提出物にコメント付きで返却してくれるのが良かったです。
- ② グループワークがとてもためになりました。
- ③ ゲストスピーカーの方々の話を聞く機会が多くとても刺激的でした。
- ④ いろいろと工夫した授業で毎回楽しかったです。
- ⑤ 月曜日の1限目はきつかったです。
- ⑥ 重複する資料などは、資源がもったいないと思いました。
- ⑦ プリントが多かった。
- ⑧ 電話応対など、実際に役立つような授業が良かったです。
- ⑨ ロールプレイや話し合う回数も多かったのではじめはなかなか意見が言えなかったけれど、今では自分の意見を言うのが怖くなくなりました。

授業評価アンケート結果(個別集計結果)(2010年3月学部FD委員会よりのお知らせから)

社会福祉援助技術現場実習指導 I

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| ・シラバス(講義概要)は受講に役立った | 本学全体平均4.05 小泉平均4.38 |
| ・各回の授業のねらいは明確だった | 本学全体平均4.24 小泉平均4.69 |
| ・授業の内容は分かりやすかった | 本学全体平均4.16 小泉平均4.63 |
| ・各回の授業内容の量が適切だった | 本学全体平均4.26 小泉平均4.31 |
| ・授業で扱った分野に関する基本的な知識が得られた | 本学全体平均4.19 小泉平均4.69 |
| ・自分にとって新しい考え方・発想が得られた | 本学全体平均4.17 小泉平均4.63 |
| ・学問的興味をかきたてられた | 本学全体平均4.39 小泉平均4.69 |
| ・教員の授業に対する準備は十分だった | 本学全体平均4.21 小泉平均4.75 |
| ・教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションが取れていた | 本学全体平均4.16 小泉平均4.88 |
| ・教科書・授業レジュメプリントや参考文献が効果的だった | 本学全体平均4.34 小泉平均4.63 |
| ・教員の声の大きさや話し方は適切であった | 本学全体平均3.96 小泉平均4.69 |
| ・板書やパワーポイントなどは分かりやすかった | 本学全体平均4.28 小泉平均4.44 |
| ・教員は静かな環境で受講できるよう努力した | 本学全体平均4.39 小泉平均4.69 |
| ・自分も授業中の静寂性を保てる努力した | 本学全体平均3.39 小泉平均4.63 |
| ・この授業で積極的に意見や質問を述べた | 本学全体平均3.39 小泉平均4.13 |
| ・あなたのこの授業に対する総合評価(満足度)を示してください | 本学全体平均4.22 小泉平均4.75 |

この結果総合評価項目で本学全体平均を上回った評価を得ました。
また学生からの自由記述欄の代表的記述としては、

- ① プリントが多かった印象があります。
- ② 実習に向けてどのような点を事前に学べば良いのか分かりました。
- ③ 実習についての学ぶ点が理解できました。
- ④ 福祉事務所に関しての知らない点を資料で詳しく教えていただきとても分かりやすかったです。
- ⑤ 一人一人に親身になって接してくれたと思う。
- ⑥ 授業外の施設見学まで丁寧なご指導ありがとうございました。先生の熱心な気持ちが伝わってきました。
- ⑦ 授業の時間配分にもう少し余裕を持ってもらいたいと思います。

(2) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

この授業においても指導Ⅰと同様に授業形態として基本的には、グループディスカッションを中心として、折にふれ、ゲストスピーカーを呼び、直接現場の話を聴講してもらいました。

指導Ⅰと違い具体的に実習直前指導となるため、実習ノートの書き方や、礼儀、実習課題の認識等中心に実習場面で困らないように注意点を喚起し、自覚してもらいました。

後期の実習事後指導においても、自己覚知を認識させるため、学生には、各人からのレポート提出を毎回提出してもらい、実習を「ただ行って感激した」とか「感動した」とかに終わることなく、今後いかに専門職としての自覚が実習で生かされていくことを授業目的としました。

レポートは、授業では、手書きでの提出に徹底しました。

そして提出後には必ず教員からもコメントをつけ返却していくことで教員と学生との距離を縮めて行く事も大切なこととして努力しました。(学生からの評判は良かったとの意見を頂きました)

そして「自己評価票」と「実習先の評価票」と照らし合わせ学生と話し合うことで、今後の反省や自信をつけ自己自身の成長へとつなげていくことを授業の帰結としました。

最後に「①自己覚知」・「②実習で得られたこと」・「③社会人になるにあたっての抱負」・「④大学生活で得られ大切にしていきたいこと」・「⑤まとめとアルバム」を5冊の小冊子(文①～⑤の実際)として毎年、各自に配布しました。

次の文は、学生の文の一例です。

① 自己覚知

2007年度卒業生Rさんのページから抜粋

—中略—

今回の実習で一番思ったのは、自分の社交性のなさコミュニケーション能力の低さである。しかし実習を通じ、なるべく意識して積極的になろうと実習中は考えた。それが少しであるが実践でき、自信につながったように思えた。

—中略—

② 実習で得られたこと

2008年度卒業生Aさんのページから抜粋

—中略—

実習を通して、人とのつながりの大切さを学びました。社会福祉協議会は、住民の協力なしには運営が難しいところであり、特に人とのつながりを大切にしているように感じました。

—中略—これから社会に出たら職員の方のように人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

③ 社会人になるにあたっての抱負

2011年度卒業生Yさんのページから抜粋

—中略—

社会人になるにあたって常に目的意識を持ち行動していきたいと思っています。これは、実習の時感じたことであり、社会に出てからも、必要になってくることであると思いました。又モチベーショ

ンを高く、現状に満足しないで仕事をしていきたいと思います。

—中略—

④ 大学生生活で得られ大切にしていきたいこと

2011年度卒業生Nさんのページから抜粋

—中略—

得られたものは、たくさんの素敵なお人にてであったこと。一つのことを続けることを学んだこと。行動力がつくれたことです。

大学は「自由な時間をどのように使うか」「どれだけ自分から周りに働きかけるか」ということがとても大切になってくると思います。

これからも自分から周りに働きかけ、多くの人とのかかわりを大切にしたいと思います。

—中略—

⑤ まとめとアルバム

2009年度小泉秀信のまとめのページから抜粋

—中略—

いろいろな実習での「得がたい多くの体験」、そして「いろいろな現場の方から刺激を受けた学生」24日間の実習が、学生の生き方、そして今後の社会人になっていく為の一つの自信になり、ひとまわりも、ふたまわりも大きくなった学生。それは学生にとっても、私自身にとっても、共同作業で得られたものです。

共に無事実習を終ることができて安心すると共に学生の成長を確認でき、学生、各実習先、各教職員の皆様に感謝していきたいと思います。

—中略—小泉秀信

それにより、学生が社会にでて、仕事に疑問を感じた時や将来、社会人として成長した時に「初心を考へて行く時」の冊子として授業の終わりに1人1人に渡していくことを恒例化しました。

(3) 社会福祉援助技術演習Ⅱ

演習の授業では、「実習での対応する場面のイメージづくり」「社会福祉士としての基本的態度」「社会福祉と平和教育」「社会人として活躍していただいているゲストの講演」の狙いを軸に演習を進めました。

学生には、多少酷ではありましたが、毎回のレポート提出の義務化、教員からのコメント付きの返却を行う事で、忙しい授業でしたが、概ね学生

からの授業評価では満足度があつたようでした。

(表⑥)

授業形態はこの授業においても指導Ⅰと同様に授業形態として基本的にクラスをグループに分けてグループディスカッションを中心として、折にふれてゲストスピーカーを呼んで、直接現場の話をお聴講してもらいました。そして実習指導Ⅰ、Ⅱと違い、学生全体への発表を行うことを目的としました。

これは、全体の場面での発表を通じてきちんと、時間通りに発表できるように訓練していく教育的効果の狙いも含めました。(折に触れて砂時計を使用)

(4) 社会福祉実習論

(中谷陽明教員、小山聡子教員、林浩康教員、渡部律子教員、木村真理子教員と6人の教員での共通科目故、簡単に触れておきます。)

2010年度から、感想文をレポート形式に改めた事で項目ごとにレポートに整理ができるようになりました。

2009年度から見学を取りやめた事で、ゲストスピーカーの回数が増えることとなりました。ゲストを2009年度から卒業生を中心しました。

それに伴いパネルディスカッション方式にしたことは、わかりやすい授業を目指す事を目的としたものでした。

2009年度から各教員への回覧を10人程度の感想文にとどめたこと。(実習関係以外の教員にも実習現場の話と学生の感想文を供覧していただくことで実習への理解の狙いもありました。)

4. その他の業務、対外的活動

課外活動としての実習施設・機関の見学について適宜、学生からの要望があり、行っていました。

また、ユタ大学教員、スロベニアの教員との関わりについて、実習先への見学案内、調査の協力を行いました。

ユタ大学への訪問は見学、授業体験含め私自身の『目から鱗』で視点が開かれました。

学生の就職活動支援に関しては、延べ10人の学生に就職の推薦をして成果が上がりました。(福祉企業4名、情緒障害児施設1名、クリニックに1名、病院に1名、知的障害者施設に1名、身体障害者施設に2名、)

卒業生の相談援助についてはキャリア支援課とも協力連帯して本人希望に沿う形での援助を行いました。

5. 研究活動

「社会福祉紀要49号」の「調査・報告項目での、久田則夫教員、小山聡子教員、中谷陽明教員の教員と共に「社会福祉援助技術現場実習の実態と課題」として、掲載しました。

研究活動については、不十分でありましたが、その代わりとしての「学生の実習施設・機関の見学の時間・挨拶の時間にあてた事」等が効果的でした。(表④・⑤)

第三者委員として「更生施設」2か所の役割を担ったこと等も授業に生かすことができました。

6. おわりに

私は「数多くの社会福祉分野における活躍している諸先輩に続く、優秀で次代を担う逸材の養成」は本学の責務かと思えます。

実際に各福祉分野での活躍は目覚ましいものがあります。そして卒業生のアフターケアとしての本学の窓口も広く開放しておき、遠慮せずに、来校できる状況づくりも必要かと思いました。

ボランティアの各施設・機関からの要望に応じられるべき窓口を設置することも時代の要請に応じる必要があるかと思えます。室長を拝命した時の決意である「福祉分野での粘り強く持続していく人材の養成」については、私としては、志、半ばでした。そして、今後も教員各位がご尽力していただければとても嬉しく思います。

何よりも「学生の成長過程」が実感できる実習教育という業務はとても魅力ある業務と認識できた事が最大の喜びでした。

退任にあたり、各施設・機関の実習に関わった全ての方々、社会福祉学科の全ての教職員の方、アルバイトの方、TAの学生、在校生、卒業生、そして各事務分野の方々に深く感謝を致します。

そして今後のご健康とご発展、ご多幸をお祈り致しまして、退任の挨拶といたします。

『どうもありがとうございました。そしてお世話になりました。今後も宜しくお願いします』

